

大学評価 学位授与

機構ニュース

*National Institution for Academic Degrees and
University Evaluation*

第 35 号

平成 16 年 9 月発行



「コミュニケーションのとりかた」 武井 亜姫

平成15年度学士（芸術学）取得者

H210×W150×D230cm テキスタイル

主な記事

◆大学評価事業の状況 1

◆機構の窓 7

◆学位授与事業の状況 5

◆海外渡航余話 13

目 次

◆大学評価事業の状況

■平成14年度着手の大学評価事業	
○評価報告書集等の発行について	1
■大学機関別認証評価について	
○大学機関別認証評価委員会の設置について	1
■高等専門学校機関別認証評価について	
○「評価実施手引書」及び「訪問調査実施要項」の策定	1
○評価担当者研修の実施	1
○書面調査の実施	1
○高等専門学校機関別認証評価委員会運営小委員会の設置について	2
■法科大学院認証評価について	
○法科大学院認証評価委員会及び法科大学院認証評価委員会運営連絡会議の設置について	2
■試行的評価に関する検証について	
○試行的評価に関する検証委員会の設置について	2
○大学評価・学位授与機構が行った試行的評価の方法 及び効果等に関するアンケート調査について	2
■大学評価に関する各種セミナー等の開催	
○日英高等教育に関する協力プログラム 「New Challenges for Higher Education Leaders and Policymakers －リーダーシップの向上を目指して－」公開フォーラムを開催	3
○「大学情報データベース構築に関する説明会」を開催	4

◆学位授与事業の状況

■短期大学・高等専門学校卒業生、専門学校修了者等に対する学士の学位授与関係	
○373人に学士の学位を授与（平成16年度4月期）	5
■認定課程（各省庁大学校）修了者に対する学位授与関係	
○116人に修士の学位授与を決定（大学院修士課程相当の課程修了者）	6
○5人に博士の学位授与を決定（大学院博士課程相当の課程修了者）	6

◆機構の窓

○会議の開催状況	7
○研究部研究会開催状況	10
○学位授与事業の現況と課題に関する研究会	10
○委員の異動	11
○人事異動	12
○海外渡航一覧	12

◆海外渡航余話

○学位審査研究部助教授 森 利枝	13
------------------	----

（表紙の作品の解説）

現代では情報機器が発達し、離れた場所にいる人といつでもつながる事を可能にしました。その反面、そばにいる人との実際のコミュニケーションは以前より難しいものになってきています。そうした中で、大麻繊維を爪で細く裂き、繊維と繊維・糸の端と端をつなぎ、指編みによってネット状にひろげるこの作品にたどりついたのですが、それは私の中にある『つながりたい』という欲求から生まれたものだ気がしました。

この作品は、私をおおっていた皮膚みたいなものであり、皮膚がはがされた事で、制作における中心が以前よりはっきりしてきました。そして制作途中で私は、私と糸と人をつなげたいとも考えました。『糸をつなげませんか?』と呼びかけて、色々な人と糸つなぎをして、繊維の造形をつくる事になったきっかけの作品でもあります。

これからも、自分に正直に制作活動をしていきたいです。

夙川学院短期大学研修生 武井 亜姫（平成16年3月学位取得）

大学評価事業の状況

平成14年度着手の大学評価事業

○評価報告書集等の発行について

平成16年3月に確定し、公表した平成14年度着手分の大学評価の評価報告書集を発行しました。この報告書集は、全学テーマ別評価「国際的な連携及び交流活動」の対象となった115機関の評価報告書を合本したもの、分野別教育評価「人文学系」10機関（22組織）、「経済学系」8機関（16組織）、「農学系」7機関（14組織）、分野別研究評価「人文学系」9機関、「経済学系」8機関、「農学系」7機関、及び分野別教育・研究評価「総合科学」6機関のそれぞれの評価報告書を合本したものです。

また、評価結果の全般的な状況を示すとともに、機構の評価の役割と評価方法の解説、評価の実施を通じて認識された課題等を記載した「平成14年度着手の大学評価の評価結果について」を別冊として発行し、巻末にすべての評価報告書のデータを収録したCD-ROMを添付しています。

なお、これらの評価報告書集等については、当機構のウェブサイト（<http://www.niad.ac.jp/>）に掲載しています。

大学機関別認証評価について

○大学機関別認証評価委員会の設置について

大学からの求めに基づき行う、教育研究等の総合的な状況についての評価を審議するための「大学機関別認証評価委員会」を設置し、次のとおり開催しました。

大学機関別認証評価委員会

- 第1回 6月11日（金）学術総合センター
- 第2回 7月29日（木）学術総合センター

高等専門学校機関別認証評価について

○「評価実施手引書」及び「訪問調査実施要項」の策定

6月及び7月に開催された委員会において、本年度実施している試行的評価で評価担当者が実際に対象校の評価を実施する際に使用する「評価実施手引書」、及び訪問調査に際して各対象校が準備する事

項等をまとめた「訪問調査実施要項」を策定し、公表しました。詳しくは、当機構のウェブサイト（<http://www.niad.ac.jp/>）に掲載しています。

○評価担当者研修の実施

7月末に、試行的評価の評価担当者が共通理解のもとで公正、適切かつ円滑にその職務が遂行できる

よう、評価の目的、内容及び方法等について研修を実施しました。

○書面調査の実施

7月末を期限として試行的評価の対象8校から自己評価書が提出され、10月中旬から実施される訪問

調査を前に、現在、書面調査を実施しています。

○ 高等専門学校機関別認証評価委員会運営小委員会の設置について

評価委員会の会議の議案を整理するとともに、部会相互間の調整を図るため、委員会に「運営小委員会」を設置し、次のとおり開催しました。

高等専門学校機関別認証評価委員会運営小委員会
第1回 8月26日（木）学術総合センター
第2回 8月30日（月）学術総合センター

法科大学院認証評価について

○ 法科大学院認証評価委員会及び法科大学院認証評価委員会運営連絡会議の設置について

法科大学院からの求めに基づき行う、教育研究活動の状況についての評価を審議するための「法科大学院認証評価委員会」及び評価委員会の会議の議案を整理するとともに、部会相互間の調整を図るための「運営連絡会議」を設置し、それぞれ次のとおり開催しました。

法科大学院認証評価委員会
第1回 6月10日（木）学術総合センター

法科大学院認証評価委員会運営連絡会議
第1回 6月25日（金）学術総合センター
第2回 7月22日（木）学術総合センター
第3回 8月24日（火）京都

試行的評価に関する検証について

○ 試行的評価に関する検証委員会の設置について

平成12年度着手分から平成14年度着手分までの試行的実施期間において行った評価の検証を行うために、「試行的評価に関する検証委員会」を設置し、次のとおり開催しました。

試行的評価に関する検証委員会
第1回 6月4日（金）学術総合センター
第2回 7月2日（金）学術総合センター

○ 大学評価・学位授与機構が行った試行的評価の方法及び効果等に関するアンケート調査について

平成16年7月に「大学評価・学位授与機構が行った試行的評価の方法及び効果等に関するアンケート」を各対象機関長宛に実施しました。

このアンケートの集計並びに分析結果に関しましては、今後の評価に活かしていくとともに、検証報

告書にも掲載し、対象機関を含め広く社会に公表していくこととしています。また、検証報告書の公表時期は平成16年11月を予定しています。

大学評価に関する各種セミナー等の開催

○ 日英高等教育に関する協力プログラム

「New Challenges for Higher Education Leaders and Policymakers ーリーダーシップの向上を目指してー」公開フォーラムを開催

「日英高等教育に関する協力プログラム」に基づく第一期のテーマである「新しい時代の大学の管理運営－Managing Change－」プロジェクトが実施され、平成15年10月の公開セミナーにおいて、多大な成果を得て終了しました。今回、第二期のテーマである「Leadership Development－リーダーシップの向上－」プロジェクトの公開フォーラムが6月7日（月）に如水会館で開催されました。

フォーラムには、英国側から今回のイベントのためにイングランド高等教育財政カウンシル Sir Howard Newby 理事長をはじめ6名が来日し、日本側からは、国立大学等58機関から学長、理事等130名が参加、その他関係者を含め総勢170名におよぶ方々に御出席いただきました。

フォーラムは、矢野重典文部科学省文部科学審議官、Mr. Alan Curry プリティッシュ・カウンシル駐日代表がそれぞれ歓迎と開会の挨拶を述べた後、小野元之独立行政法人日本学術振興会理事長に「国立大学改革と学長のリーダーシップ」のテーマで日本学術振興会と学長のリーダーシップとの関係、法人化における大学改革、学長として必要とされる資質等についてユーモアを交えながら講演をいただきました。続いて Sir Howard Newby 理事長に本プロジェクトのテーマである「New Challenges for Higher Education Leaders and Policymakers」について、英国の高等教育制度の歴史、現状及び課題、これからのチャレンジ等の内容の講演をいただきま

した。その後、これらの講演に対して、授業料の設定や経営面における学長のリーダーシップ等について積極的な質疑応答が行われました。

午後からは、本年度英国で高等教育のリーダーシップの養成機関として設立されたリーダーシップ・ファンデーションの Mr. Ewart Wooldridge 理事長からの紹介講演が行われました。ここでは、リーダーシップ・ファンデーションが高等教育面でのリーダーシップを養成することは、国全体の教育面だけでなく経済的なチャレンジであるという理念の下に設立された経緯、養成プログラムの提供などの現状での活動、将来の具体的ビジョン等について講演をいただきました。また、「大学運営のリーダーシップ (Leadership and Management of University)」のテーマで、高等教育に様々な立場で携わる日英の代表者によるパネル・ディスカッションが行われました。このディスカッションにおいても、日英のリーダーシップを発揮させる立場、または発揮する立場から忌憚のない意見交換がなされ、それに対する質疑応答も積極的に行われました。そして最後に、木村孟独立行政法人大学評価・学位授与機構長がフォーラムをまとめ、閉会となりました。

法人化後、約2ヶ月ということもあり、参加した大学の学長、理事等からは、質疑応答においても、リーダーシップの発揮、向上に対するより具体的な質問が多く寄せられるなど、これらの件に関する関心の高さを窺わせました。



「日英高等教育に関する協力プログラム公開フォーラム」(H16.6.7)

その後、フォーラム参加者が多数出席されたレセプションが行われました。徳永保文部科学省大臣官房担当審議官（高等教育局担当）の発声で乾杯し、各大学間の法人化後の現状についての率直な意見交換や、英国側との情報交換が活発に行われ、日本語、英語が飛び交う中、和やかに談笑する風景が見られ、

今回のイベントは盛会のうち無事終了しました。

なお、公開フォーラムでのプレゼンテーション資料等については、当機構のウェブサイト（<http://www.niad.ac.jp/>）に掲載しています。

○「大学情報データベース構築に関する説明会」を開催

去る8月3日(火)、東京都千代田区の一橋記念講堂において、「大学情報データベース構築に関する説明会」を開催しました。

同説明会は、大学等の教育研究活動等の状況についての評価に関する情報の収集、整理、提供業務の中核となる「大学情報データベース」の構築について、平成16年度から具体的に着手するに当たり、大学等から理解・協力をいただくことを主旨としたもので、今回は、主として国立大学及び大学共同利用機関を対象とし、96機関から313名の参加を得ました。

冒頭、機構を代表して荒船理事から挨拶があった後、川口評価研究部長から「大学情報データベースの構築と平成16年度以降の大学評価について」と題して、認証評価及び国立大学法人評価の概略、並びにこれらの評価と「大学情報データベース」の関係について説明が行われました。

続いて、佐久間教授及び林助手から「大学情報

データベースの構築について」、「大学情報データベースのデータ項目、定義等について」と題して、「大学情報データベース」の目的、基本コンセプト、データ項目の構成、大学等への協力依頼事項及びシステム構築に関連する諸課題等について説明が行われました。

最後に、質疑応答・意見交換の時間が設けられ、データベースの在り方から具体的なデータ項目に至るまで、各大学等から種々貴重な意見等をいただくことができました。

機構では、今後とも説明会の開催等を適宜行い、大学等との連携・協力を図りながら、「大学情報データベース」を構築・運用してまいりたいと考えています。

なお、当日の配付資料等については、当機構のウェブサイト（<http://www.niad.ac.jp/>）に掲載しています。



大学情報データベース構築に関する説明会（H16.8.3）

学位授与事業の状況

短期大学・高等専門学校卒業生、専門学校修了者等に対する学士の学位授与関係

○ 373人に学士の学位を授与

— 平成16年度4月期 —

平成16年度4月期の学士の学位授与申請受付の結果、21専攻分野40専攻区分にわたる443人から申請があり、6月13日(日)に小論文試験(札幌、東京、大阪及び福岡地区)と面接試験(東京地区)がそれぞれ行われました。このうち、申請者への利便性を配慮して、平成14年10月期からの福岡地区(九州大学)での実施に続き、今期、新たに札幌地区(北海道大学)での試験を実施しました。

学士の学位授与については、関係各専門委員会で行われた修得単位の審査及び学修成果・試験の審査の結果に基づき、8月24日(火)開催の学位審査会において最終審査が行われ、合格と判定された373人に対し当機構から学士の学位が授与されました。

申請者数及び授与者数は次表のとおりです。

<平成16年度4月期の申請者数及び授与者数(基礎資格別)>

基礎資格	申請者数 (人)	授与者数 (人)
短期大学卒業生	271	231
高等専門学校卒業生	18	15
専門学校修了者	119	102
大学中退者	23	16
飛び級	3	3
大学卒業生	9	6
合計	443	373



小論文試験会場 (H16.6.13 北海道大学)

<平成16年度4月期の申請者数及び授与者数(専攻区分別)>

専攻分野	専攻区分	申請者数 (人)	授与者数 (人)
文 学	国 語 国 文 学	4	2
	英語・英米文学	1	1
	心 理 学	2	2
教 育 学	教 育 学	11	5
社 会 学	社 会 学	3	1
	社会福祉学	2	2
教 養	比 較 文 化	1	1
	科学技術研究	1	0
学 芸	比 較 文 化	1	1
	地 域 研 究	2	2
社 会 科 学	社 会 科 学	1	0
法 学	法 学	4	3
経 済 学	経 済 学	1	0
商 学	商 学	3	1
経 営 学	経 営 学	3	3
理 学	数学・情報系	1	1
	物理学・地学系	1	1
	化 学 系	2	2
	生 物 学 系	3	2
	総 合 理 学	3	2
看 護 学	看 護 学	193	161
保 健 衛 生 学	検査技術科学	25	25
	放射線技術科学	70	68
	理 学 療 法 学	16	16
	作 業 療 法 学	4	4
鍼 灸 学	鍼 灸 学	16	12
栄 養 学	栄 養 学	18	15
工 学	機 械 工 学	7	4
	電気電子工学	6	5
	情 報 工 学	2	2
	応 用 化 学	3	2
	生 物 工 学	1	1
	土 木 工 学	1	1
	建 築 学	5	5
農 学	農 学	2	2
水 産 学	水 産 学	1	1
家 政 学	家 政 学	1	0
芸 術 学	音 楽	4	4
	美 術	16	11
体 育 学	体 育 学	2	2
合 計		443	373

認定課程（各省庁大学校）修了者に対する学位授与関係

○ 116人に修士の学位授与を決定

—大学院修士課程相当の課程修了者—

平成16年3月に認定課程を修了した防衛大学校理工学研究科（前期課程）、同校総合安全保障研究科、職業能力開発総合大学校研究課程及び独立行政法人水産大学校水産学研究科の合計117人からの修士の学位授与申請について、理学、工学・芸術工学、社会科学及び水産学の各専門委員会での論文審査及び試験の結果に基づき、8月24日（火）開催の学位審査会において最終審査が行われました。

合格と判定された116人には、当機構から9月17日（金）に修士の学位が授与される予定です。

<修士の学位授与申請者数及び授与予定者数>

認定課程名	専攻分野	申請者数 (人)	授与予定 者数(人)
防衛大学校 理工学研究科 (前期課程)	理 学 工 学	8 53	8 53
防衛大学校 総合安全保障研究科	安全保障学	15	15
職業能力開発総合 大学校研究課程	工 学	30	29
独立行政法人 水産大学校 水産学研究科	水 産 学	11	11
合 計		117	116

○ 5人に博士の学位授与を決定

—大学院博士課程相当の課程修了者—

平成16年3月に認定課程を修了した防衛大学校理工学研究科（後期課程）の5人（当該課程から初めての申請）からの博士の学位授与申請について、理学及び工学・芸術工学の各専門委員会での論文審査及び試験の結果に基づき、8月24日（火）開催の学位審査会において最終審査が行われました。

合格と判定された5人には、当機構から9月17日（金）に博士の学位が授与される予定です。

<博士の学位授与申請者数及び授与予定者数>

認定課程名	専攻分野	申請者数 (人)	授与予定 者数(人)
防衛大学校 理工学研究科 (後期課程)	理 学 工 学	2 3	2 3
合 計		5	5



学位審査会（H16.8.24）

機 構 の 窓

○会議の開催状況

評議員会

第2回 平成16年8月18日（水）～23日（月）（持ち回り）

・議事

- (1) 国立大学教育研究評価委員会委員（案）について

運営委員会

第2回 平成16年6月22日（火）（持ち回り）

・議事

- (1) 高等専門学校機関別認証評価委員会専門委員（案）について
- (2) 法科大学院認証評価委員会専門委員（案）について

第3回 平成16年8月9日（月）～16日（月）

（持ち回り）

・議事

- (1) 国立大学教育研究評価委員会委員（案）について

大学機関別認証評価委員会

第1回 平成16年6月11日（金）

・議事

- (1) 独立行政法人大学評価・学位授与機構大学機関別認証評価委員会細則（案）等について
- (2) 大学機関別認証評価実施大綱（案）及び大学評価基準（機関別認証評価）（案）について
- (3) 自己評価実施要項及び評価実施手引書等の検討について
- (4) その他

第2回 平成16年7月29日（木）

・議事

- (1) 大学機関別認証評価実施大綱（案）について
- (2) 大学評価基準（機関別認証評価）（案）について
- (3) 自己評価実施要項について
- (4) その他

短期大学機関別認証評価委員会

第2回 平成16年6月18日（金）

・議事

- (1) 独立行政法人大学評価・学位授与機構短期大学機関別認証評価委員会細則（案）等について
- (2) 短期大学機関別認証評価実施大綱（案）及び短期大学評価基準（機関別認証評価）（案）について
- (3) 自己評価実施要項について
- (4) その他

第3回 平成16年7月9日（金）

・議事

- (1) 短期大学機関別認証評価実施大綱（案）及び短期大学評価基準（機関別認証評価）（案）について
- (2) 自己評価実施要項について
- (3) その他

高等専門学校機関別認証評価委員会

第2回 平成16年6月24日(木)

・議事

- (1) 高等専門学校機関別認証評価(試行的評価)に関するQ&A(案)について
- (2) 評価実施手引書(案)について
- (3) 訪問調査実施要項(案)について
- (4) その他

評価担当者研修

- ・平成16年7月22日(木)
- ・平成16年7月26日(月)(7月22日不参加者のみ)

高等専門学校機関別認証評価委員会運営小委員会

第1回 平成16年8月26日(木)

第2回 平成16年8月30日(月)

第3回 平成16年7月22日(木)

・議事

- (1) 評価部会の編成(案)について
- (2) 評価部会長及び副部会長の選出について
- (3) 評価実施手引書(案)について
- (4) 訪問調査実施要項(案)について
- (5) その他

法科大学院認証評価委員会

第1回 平成16年6月10日(木)

・議事

- (1) 法科大学院認証評価委員会細則(案)等について
- (2) 法科大学院評価基準要綱(案)について
- (3) 評価の実施方法について
- (4) その他

法科大学院認証評価委員会運営連絡会議

第1回 平成16年6月25日(金)

第2回 平成16年7月22日(木)

第3回 平成16年8月24日(火)

試行的評価に関する検証委員会

第1回 平成16年6月4日(金)

・議事

- (1) 評価に係るこれまでの経緯と大学評価・学位授与機構の現況について
- (2) 試行的評価に関する検証事業の進め方について
- (3) 試行的評価の効果等に関するアンケート調査について
- (4) その他

第2回 平成16年7月2日(金)

・議事

- (1) 平成12・13・14年度着手分大学評価に関するアンケート調査の分析について
- (2) 試行的評価の効果等に関するアンケート調査について
- (3) インタビュー調査の実施について
- (4) その他

学位審査会

第2回 平成16年8月24日（火）

・議事

- (1) 短期大学及び高等専門学校の卒業者等に係る学士の学位授与の審査について
- (2) 認定課程修了者に係る修士の学位授与の審査について
- (3) 認定課程修了者に係る博士の学位授与の審査について
- (4) 平成16年度教育の実施状況等の審査について（短期大学・高等専門学校の認定専攻科）

- (5) 平成16年度教育の実施状況等の審査について（独立行政法人水産大学校水産学研究科）
- (6) 平成17年度教育の実施状況等の審査について（短期大学・高等専門学校の認定専攻科）
- (7) 工学・芸術工学専門委員会「社会システム工学部会」（仮称）の設置について
- (8) その他

学位審査会専門委員会 <平成16年4月～平成16年7月>

1. 審査事項

- ①平成16年度4月期の短期大学・高等専門学校卒業者等からの学士の学位授与申請に係る審査
- ②認定課程修了者からの修士及び博士の学位授与申請に係る審査

2. 開催回数

文学・神学専門委員会		（検査技術科学部会）	2回
（国語国文学部会）	1回	（放射線技術科学部会）	1回
（英語・英米文学部会）	2回	（理学・作業療法学部会）	1回
（心理学部会）	1回	（鍼灸学部会）	1回
教育学専門委員会	2回	家政学・栄養学専門委員会	
社会学専門委員会		（家政学部会）	1回
（社会学部会）	1回	（栄養学部会）	1回
（社会福祉学部会）	1回	工学・芸術工学専門委員会	
教養・学芸専門委員会	2回	（機械工学部会）	1回
社会科学専門委員会	1回	（電気電子工学部会）	1回
法学・政治学専門委員会	2回	（情報工学部会）	1回
経済学・商学・経営学専門委員会	2回	（応用化学部会）	1回
理学専門委員会		（土木工学部会）	1回
（数学・情報系部会）	1回	（建築学部会）	1回
（物理学・地学系部会）	1回	農学専門委員会	1回
（化学系部会）	1回	水産学専門委員会	1回
（生物学系部会）	2回	芸術学専門委員会	
看護学・保健衛生学・鍼灸学専門委員会		（美術部会）	1回
（看護学部会）	2回	体育学専門委員会	1回

○ 研究部研究会開催状況

評価研究部・学位審査研究部合同研究会

平成16年 8 月19日（木）

・講演

- (1) ビブリオメトリクスによるピアレビューの支援可能性の検討
〔評価研究部助手 林 隆之〕
- (2) 学士課程教育の多様化・弾力化と学位の質保証への検討課題
〔学位審査研究部助教授 濱中 義隆〕
〔学位審査研究部助教授 吉川 裕美子〕

学位審査研究部研究会

公開研究会

平成16年 6 月22日（火）

・講演

- (1) 「ヨーロッパ高等教育圏」に向けての収斂と多様性
〔カッセル大学高等教育・職業研究センター教授 ウルリッヒ・タイヒラー〕

全体研究会

平成16年 6 月29日（火）

・講演

- (1) 品質マネジメント概念の変遷と大学への応用
〔評価研究部助教授 齊藤 貴浩〕
- (2) 大学教育改善のための評価活動に対する品質マネジメント・システム事例
〔東京工業大学大学院社会理工学研究科教授、
教育工学開発センターセンター長
牟田 博光〕
〔東京工業大学教育工学開発センター助教授
中山 実〕

○ 学位授与事業の現況と課題に関する研究会

本年度より大学評価・学位授与機構が独立行政法人となったことを機に、7月27日（火）、東京工業大学百年記念会館において、学位授与事業の設立及び運営に尽力してこられた田中郁三初代機構長をはじめ黒羽亮一、平則夫、齋藤安俊、小野嘉夫の各名誉教授を招き、機構からは神谷学位審査研究部長、六車教授、宮崎助教授が出席し、学位授与事業の現況と課題に関する研究会が開催されました。

研究会では、神谷部長からの学位授与事業についての現況報告に引き続き、今後の諸課題等について意見交換が行われました。各名誉教授には学位授与事業の発展を喜ばれ、また、貴重な助言をいただきました。



右から、齋藤名誉教授、小野名誉教授、平名誉教授、黒羽名誉教授、田中名誉教授

○委員の異動

国立大学教育研究評価委員会

独立行政法人大学評価・学位授与機構国立大学教育研究評価委員会（国立大学法人法（平成15年法律第112号）第35条において読み替えて準用する独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第34条第2項の規定による国立大学法人評価委員会からの要請により機構が行う国立大学及び大学共同利用機関の評価について審議を行う。）が発足し、委員長に丹保憲仁氏、副委員長に北原保雄氏が選出されました。

・国立大学教育研究評価委員会委員25人 任期：平成16年9月1日～平成18年8月31日

氏 名	現 職	氏 名	現 職
内 田 博 文	九州大学教授	鈴 木 昭 憲	秋田県立大学長
岡 田 修 三	東京海上火災保険(株)特別任命参与	鈴 木 清 江	(株)三越銀座店副店長
岡 田 益 男	東北大学教授	瀬 戸 純 一	毎日新聞社論説副委員長
小野田 武	日本大学教授	館 昭	桜美林大学教授
加 藤 祐 三	公立大学協会相談役	◎丹 保 憲 仁	放送大学長
○北 原 保 雄	日本学生支援機構理事長	中 川 幸 也	石川島播磨重工業(株)常務執行役員
木 村 靖 二	大学評価・学位授与機構教授	中 村 健 蔵	素粒子原子核研究所教授
興 膳 宏	京都国立博物館長	二 宮 皓	広島大学教授
齋 藤 八重子	東京都立九段高等学校長	ハンス ユーゲン・マルクス	南山大学長
島 田 燐 子	学校法人文京学院理事長・文京学院大学長	本 庶 佑	京都大学大学院医学研究科長
清 水 雅 彦	慶應義塾大学常任理事	前 原 澄 子	三重県立看護大学長
示 村 悦二郎	前北陸先端科学技術大学院大学長	森 敏	大学評価・学位授与機構教授
白 幡 洋三郎	国際日本文化研究センター教授		

(◎委員長、○副委員長)

試行的評価に関する検証委員会

独立行政法人大学評価・学位授与機構試行的評価に関する検証委員会（平成12年度着手分から平成14年度着手分までの試行的実施期間において機構が実施した評価の内容・方法について総合的な検証を行う。）が発足し、委員長に岸輝男氏、委員長代理に野上智行氏が選出されました。

・試行的評価に関する検証委員会委員20人 任期：平成16年5月21日～平成17年3月31日

氏 名	現 職	氏 名	現 職
江 川 雅 子	ハーバード・ビジネス・スクール 日本リサーチ・センター長	高 橋 强	京都大学大学院農学研究科長
大 川 尚 士	九州大学名誉教授	谷 口 吉 弘	立命館大学教授
大 塚 雄 作	大学評価・学位授与機構教授	○野 上 智 行	神戸大学長
川 口 昭 彦	大学評価・学位授与機構教授	羽 田 貴 史	広島大学教授
河 村 晴 子	東京都立小川高等学校長	早 田 幸 政	金沢大学教授
◎岸 輝 雄	物質・材料研究機構理事長	原 山 優 子	東北大学教授
北 川 源四郎	情報・システム研究機構理事	平 野 次 郎	学習院女子大学特別専任教授
木 村 靖 二	大学評価・学位授与機構教授	堀 内 昭 義	中央大学教授
佐 藤 東洋士	桜美林学園理事長	森 正 夫	公立大学協会相談役
塩 野 寛	旭川医科大学副学長	吉 川 誠 一	(株)富士通研究所取締役

(◎委員長、○委員長代理)

高等専門学校機関別認証評価委員会

高等専門学校機関別認証評価委員会専門委員に、18人の方々が就任されました。

任期：平成16年7月22日～平成17年3月31日

氏 名	現 職	氏 名	現 職
阿 蘇 和 寿 市 村 洋 大 林 誠	石川工業高等専門学校教授 東京工業高等専門学校教授 東京都教育庁指導部 高等学校教育指導課指導主事	佐 藤 和 秀 下 村 波 基 庄 司 彰	長岡工業高等専門学校教授 岐阜工業高等専門学校教授 宮城工業高等専門学校教授
奥 崎 真理子 柿 本 静 志	函館工業高等専門学校助教授 学校法人多摩美術大学 総務部長兼経理部長事務取扱	田 中 正 人 築 谷 隆 雄 野 澤 庸 則	大学評価・学位授与機構教授 松江工業高等専門学校教授 大学評価・学位授与機構特任教授
蕪 木 豊	学校法人啓明学園 中学校・高等学校校長代理	長谷川 淳 広 山 信 朗 松 田 安 隆	函館工業高等専門学校校長 育英工業高等専門学校教授 明石工業高等専門学校教授
鎌 田 勝 河 野 昭 三	木更津工業高等専門学校教授 東北大学教授	和 田 義 博	日本公認会計士協会常務理事

法科大学院認証評価委員会

法科大学院認証評価委員会専門委員に、12人の方々が就任されました。

任期：平成16年6月25日～平成18年4月30日

氏 名	現 職	氏 名	現 職
石 川 敏 行 碓 井 光 明 曾 根 威 彦 滝 澤 正 棚 村 政 行 土 井 真 一	中央大学教授 東京大学教授 早稲田大学教授 上智大学教授 早稲田大学教授 京都大学教授	中 川 丈 久 中 森 喜 彦 長谷部 恭 男 深 田 三 徳 安 永 正 昭 山 本 和 彦	神戸大学教授 京都大学教授 東京大学教授 同志社大学教授 神戸大学教授 一橋大学教授

○人事異動（平成16年6月～平成16年8月）

年月日	氏 名	異 動 内 容	異動前等の職名
【評価研究部】			
16.7.1	袖 山 禎 之	転出 文化庁文化財部伝統文化課 文化財保護企画室長	評価研究部助教授

○海外渡航一覧（平成16年6月～平成16年8月）

所 属 ・ 職 名	氏 名	渡 航 先	目 的	渡 航 期 間
機 構 長	木村 孟	マレーシア	東アジア会議	H16. 6. 20～H16. 6. 24
評 価 事 業 部 評価調査室・室長	秋保 聡	フランス	ユネスコ第2回国際的な質保証及び資格認定に関するグローバルフォーラム、OECD/UNESCO国際質保証ガイドライン専門家会合、事務打合せ	H16. 6. 25～H16. 7. 5
機 構 長	木村 孟	フランス	ユネスコ第2回国際的な質保証及び資格認定に関するグローバルフォーラム、OECD/UNESCO国際質保証ガイドライン専門家会合	H16. 6. 27～H16. 7. 1
評価研究部・助教授	井田 正明	アメリカ合衆国	CHEAワークショップ参加	H16. 7. 6～H16. 7. 11
評 価 事 業 部 企画調整室・専門官	氏次 健	アメリカ合衆国	CHEAワークショップ参加、大学評価に関する事務打合せ	H16. 7. 6～H16. 7. 12
評 価 事 業 部 評価調査室・係員	下口啓志郎	アメリカ合衆国	CHEAワークショップ参加、大学評価に関する事務打合せ	H16. 7. 6～H16. 7. 12
評価研究部・教授	佐久間健人	フランス	再結晶および粒成長国際会議	H16. 8. 28～H16. 9. 6



「キャッチ22」

学位審査研究部助教授

森 利枝

キャッチ22という小説がある。アメリカの作家ジョセフ・ヘラーが、第二次世界大戦中の従軍体験を基に書いた長編小説で、イタリア戦線の基地を舞台に、戦争という日常を暮らす人びとを冷徹なユーモアで描いた作品である。この一風変わったタイトルは軍規にひそむ陥穽（かんせい）キャッチ22に由来している。たとえば、「精神疾患を理由として前線での戦闘任務を免除されるには本人が願い出なければならない」という条項がある。しかし同時に「みずから戦闘任務の免除を願う者は精神疾患とは認められない」という条項もある。つまり、精神疾患による戦闘任務の免除は発生しえないのである。これがキャッチ22である。この独特の味のある小説は広く読まれ、映画化もされた。今ではキャッチ22といえ、二つの命題の必要条件と充分条件が互いに入れ子構造になってにっちもさっちも行かない状況を指す言葉として日常的に用いられている。

筆者は今年3月から、在外研究の機会を得て1年間の予定でアメリカのマサチューセッツ州に滞在している。筆者にとっては初めての、外国の土地に住む経験であり、言語の違いは言うに及ばず文化の違いに戸惑う日々が続いている。最大の難関は「電話」だった。そしてそれが今回筆者が最初に陥ったキャッチ22だったのである。

悪い条件はいくつかあった。筆者が借りた古いアパートの室内に、もう使われていないインタフォンのスピーカが取り外されないまま存在していたことがそのひとつだが、何をしても筆者がこの国の住居に慣れていないということがその最大のものだった。アパートの集合玄関は常に施錠されており、外側にブザーが設置されていた。訪問者がブザーを鳴らせば室内のスピーカが反応するのだろう、筆者はそう思っていた。実験の機会はなかった。独り暮らしを始めたばかりで親しい友人もなかったからである。不動産会社も管理会社も、そのスピーカはもう使われていないとは教えてくれなかった。そしてある日、筆者は研究先のオフィスに与えられた電話から電話会社に連絡して、アパートの電話開設の工事を予約した。

工事の時間は朝8時から11時までのあいだと約束された。その日筆者はやや緊張しながらインタフォンが鳴るのを待った。3時間が過ぎたが何も起きなかった。こんなこともあるだろうと思って正午まで待った。技師さんにもお昼休みが必要なのだ、とさ

らに2時間待った。思えば日本のサービス産業の質は高かったのだなあなどと思いつつも2時間待った。午後4時過ぎ、さすがに何かおかしいと確信し、電話会社に連絡するためにオフィスに出かけようとして、集合玄関の外側に、筆者宛の電話帳が置き去りにされていることに気づいた。

筆者は知らなかったのだ。玄関のブザーが、加入電話に接続されるものであることを。玄関でブザーを鳴らすと室内では電話が鳴るということ。電話が開設されていなければ訪問者を迎え入れられないということ。その日技師さんは約束の時間より早く、朝7時50分ごろには玄関の前に着いて、中に入れずに困った挙句帰ってしまったのだった。サービスの質の日米比較などおこがましいことに思いを致した自分を恥じた。しかしまだ解けない謎が残っていた。この種のブザーが設置されている建物では、訪問者を迎えるためには電話を開設しなければならず、電話を開設するためには技師さんという訪問者を迎え入れなければならない。このキャッチ22から、アメリカに住む人々はどのようにやって抜け出しているのだろうか。

さて、大学評価・学位授与機構もこの4月から独立行政法人となった。本来の学位授与業務に加えて大学評価の使命を得てから4年が経ったわけだが、思うに片方の手で大学の質の保証を行い、もう片方の手で大学の質に基づいた学位の授与を行うという一見矛盾した機構のふたつの使命は、ややもすると機構の存在をこのキャッチ22に陥れてしまいそうに見える。その陥穽を回避するには、高等教育の質への理想を堅持し、大学への不信ではなく、信頼に基づく評価と学位授与への道を模索することが求められるように思われる。あるいはそれは、時間のかかる営みかもしれないが。

ところで電話と玄関ブザーのキャッチ22に陥って以来、筆者は当地で得た多くの友人知人にこの話を披露してきた。そして皆さんどう対処していらっしゃるんですか、と尋ね続けている。今のところ得られている唯一の対処法は「集合玄関に椅子と本を持ち出して日がな訪問者を待つ」である。

ジョーゼフ・ヘラー／飛田茂雄訳『キャッチ=22』
上下、1977年（ハヤカワ文庫）

Joseph Heller, *Catch-22*, Simon & Schuster, 1955

編集後記

- ◇ 「機構」の学位審査の結果、今年も前半の4月期の申請者から、373人の学士、116人の修士、5人の博士が、誕生いたしました。日頃からの研修の結果が見事に実を結んだものです。皆様、本当におめでとうございます。
- ◇ 大学機関別認証評価委員会、短期大学機関別認証評価委員会、法科大学院認証評価委員会が平成16年5月に立ち上がり、それぞれの委員会が評価基準等の策定に努力して参りました。9月現在、「機構」が文部科学省に認証評価機関としての認証を申請する最終準備を行っています。認証を受ければ「機構」は平成17年度に実施する評価の各対象機関からの評価の申請を受け付けることが可能となります。
- ◇ 一方、高等専門学校機関別認証評価に関しては平成16年5月に委員会が設置され現在試行的評価が実施されている最中です。この高等専門学校機関別認証評価も試行の結果をふまえて、平成17年度中に「機構」が文部科学省に認証評価機関としての認証を申請する予定です。
- ◇ 学長のリーダーシップをテーマに、日英高等教育に関する協力プログラムの公開フォーラム「New Challenges for Higher Education Leaders and Policymakers－リーダーシップの向上を目指して－」が平成16年6月7日に開催され、多数の参集を得、関係者からの多大な関心を伺わせました。
- ◇ 「大学情報データベース構築に関する説明会」（平成16年8月3日開催）では、国立大学法人評価等に必要なバックデータなどとして、機構が準備を進めている大学情報データベースの活用をご提案申し上げました。当日及びその後の反響では、今後も対象機関との十分な連携・協力が必要であることが確認されました。
- ◇ 機構が試行的に行いました平成12、13、14年度着手の「全学テーマ別評価」、「分野別教育評価」、「分野別研究評価」の結果が出そろいました。現在、これらの試行的評価に対して、平成16年5月21日に「試行的評価に関する検証委員会」を設置し、対象機関からのアンケート回答（ほぼ100%の回答率）やインタビューによる見聞を集約して、試行的評価の検証を行っています。寄せられた多岐にわたる貴重なご意見は、「機構」に9月1日に設置された「国立大学教育研究評価委員会」が今後策定する国立大学教育研究評価実施大綱や要項づくり等に反映されることになっています。
- ◇ 袖山禎之助教授が文化庁に転出されました。袖山先生には卓抜した立法能力を発揮されて、これまで、機構内での種々の文書作成や、評価基準の策定などに際して、その立案から成文に至る過程で、様々な側面に多大なご貢献を頂きました。新しい職場でのますますのご活躍をご期待申し上げます。

(M. S.)

編集 独立行政法人大学評価・学位授与機構広報委員会

連絡先 〒187-8587

東京都小平市学園西町1-29-1

独立行政法人大学評価・学位授与機構管理部総務課

電話 / Fax 042-353-1516/1552

ホームページアドレス <http://www.niad.ac.jp/>

印刷 明誠企画株式会社

〒208-0022 東京都武蔵村山市榎2-25-5

電話 042-567-6233